



運動会演技も仕上げに入っています

運動会まで残すところ1週間となりました。今までは体育館で表現運動の練習をしてきましたが、今週からは運動場に出て、実際に隊形移動をしながら練習をしていきます。

1・2年生は、先週の練習の時に、『がんばったね』から、さらにパワーアップして『できたね』になりました。」と、指導の先生に演技の上達を誉めてもらっていました。「鬼滅の刃」の曲に合わせて、感情移入しながら演技を仕上げています。特に、剣を抜くシーンがとてまかっこいいです。

3・4年生は、テーマの『カッコイイ』がより仕上がるように、教室を出るところから集中して、練習に臨んでいます。「南中ソーラン」は、北海道の民謡であるソーラン節をアップテンポにアレンジした曲を用いた踊りです。日に日に力強さに磨きがかかってきています。

5・6年生は、前半はフラッグで、後半はダンスで表現します。フラッグの演技では、5・6年生全員の息がピッタリ合った旗さばきです。全員のフラッグの音が1つになって演技が進行しています。力強さ・しなやかさ・優雅さを感じます。後半の演技は、ステップが難しいですが、どの子も一生懸命に練習をしています。何よりも皆の心が一つになっているところが素晴らしいです。そして、子どもたちからは、「家でも練習をしています、学校でみんなと一緒に練習をするのが楽しいです。」という練習後の感想もありました。仲間と共に、一つのことを成し遂げていく喜びを感じながら練習に臨んでいます。

もう一つの競技

運動会では、表現運動ともう一つ、徒競走を行います。徒競走と言えば、相田みつおさんの『いのちのバトン』を思い出します。

「順位をつけるのは走らない傍観者」

「走っている当事者は、ただひたすら走るだけ。

いのちいっぱい走るだけ。みんな百点満点なのだ」

「それぞれに能力の差はあるけれど、いのちの尊さは同じ」(詩の一部抜粋)

なるほどなと納得させられます。子どもたちは、いつも真剣です。自分の持てる力を精一杯発揮します。その精一杯の頑張りを称えたいです。

初めはできなかったことが、練習を通してできるようになる経験が、今後の子どもたちの生き方に大きく影響してくると思います。結果だけにとらわれず、過程が大事だと考えます。目標に向けて、一生懸命に頑張る姿が大事だと思います。ご家庭でも、運動会の練習を話題にしながら、子どもたちとたくさん話してみてください。そして、子どもたちの頑張りを認め、励ましてあげてください。

百点満点のビリ (一部抜粋)

「わあ！！うちの太郎は一着よ！！」
「うちの花子は二着だ！！」
一着だ、二着だ、と
順位をつけるのは大人達
つまり、自分では走らない傍観者

走っている当事者 _____
子供達は _____

ただひたすら走るだけ
いのちいっぱい走るだけ
いのちいっぱい走る事が尊いのだ
いのちいっぱい走ることで
みんな百点満点なのだ

一着二着の順位はあるけれど
一着も百点満点
二着も百点満点
そして
百点満点のビリなのだ

一人一人の人間には
それぞれに能力の差はあるけれど
いのちの尊さは同じです
どんな人のいのちでも
平等に百点満点に
尊いからです

運動会のスローガンです

スローガンには平荘っ子の思いが込められています。

平荘っ子のみんなが一致団結して、燃え上がるような気持ちで運動会を頑張りたいという思いで決めました。

平荘っ子がコロナで密になることができないから、「心」を密にして、一人一人が頑張って、燃え上がるような運動会にしたい。

平荘っ子たちは密になれないけど、せめて心だけは密になって燃え上がろうという思いで決めました。

平荘小学校のみんなが、一生懸命運動会を頑張れるようにしました。コロナのせいで、みんなで集まって楽しくしゃべりながら給食を食べたり遊んだりできないけど、心だけは密にして熱く燃え上がれるようにしたいと思います。



今は、コロナで、みんなと近づいて話すことはできないけど、心だけでも近づけるように、「心を密に」を使い、その心に火をつけるように燃え上がるという思いで、『平荘っ子 心を密に 燃えあがれ』に決定しました。

平荘っ子全員、今は密にできないけれど、心は密に燃え上がるほど頑張るという思いです。

運動会の練習風景



5・6年生の表現運動です。フラッグの音が一つになり、心地よい緊張感が会場に走っています。



3・4年生も隊形移動した練習に入っています。腰の入った力強い演技に仕上がっています。



1・2年生は、手作りの法被を身にまとい、気合い満々で踊っています。この写真は、多目的室で、世界に一つしかない自分の法被を作ったときの様子です。みんなとても上手にできました。



スローガンを掲示しています